

ボツワナ共和国月報(2019年6月)

主な出来事

【内政】

- BPFは正式に政党へ
- 10名の中央地区地方議会議員のBDP離党
- マシシ大統領の暗殺未遂報道

【外政】

- マシシ大統領の米国訪問
- BITC等, 中国アフリカ輸出貿易展に参加へ
- カガメルワンダ大統領のボツワナ訪問

【経済】

- Kalahari Energy Botswana 社, 97MWのコールベッドメタン発電所の建設優先権を獲得
- 国営企業評価民営化局, ボツワナ食肉委員会の民営化に約1300万プラを支出
- 一部地域の口蹄疫の終息宣言

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ 現在までに20名の無所属国会議員候補が登録

独立選挙委員会の発表によると、2019年の総選挙に向けて、現在までに20名の国会議員候補者が無所属で出馬する登録を完了している。また、198名の無所属で出馬する地方議会議員候補者が登録している。無所属で出馬する候補者の数は増加しており、ここ数年で最も多くなる見通しである。2014年の総選挙では29名の無所属国会議員候補者が登録したが、一人も当選できなかった。立候補した無所属国会議員候補には、与党BDPの予備選挙で落選したカマル氏等が含まれている。(1日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 国家石油基金を巡る汚職疑惑に関する公判は7月18日に再開

6日、国家石油基金を巡る汚職疑惑に関する公判がハボロネで実施された。次回の公判は7月18日に実施されることが決定され、ケボナン元鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣を含む被告に対する容疑を棄却するか否かが決定される見込みである。(11日:デیلیー・ニュース紙)

○ 与党BDPの財務状況悪化

与党BDPは最近モコロディ野生動物保護区において、57選挙区の立候補者を集めた会合を開催した。同会合の中でマシシ大統領は、BDPが過去数年間に亘り蓄積していた5000万プラの赤字から立ち直るためにあらゆる手段を講じると発言した。同大統領によると、これまで融資や過

振でBDPを支援してきた市中銀行は現在、BDPに進んで資金を提供してくれない状況となっている。同会合において、マシシ大統領は党の財務状況について透明性を確保したことを賞賛された。ダダBDP財務局長は本紙に対して財務状況に係る情報の共有を拒否した。(12日:ポツワナ・ガゼット紙)

○ 有権者登録名簿の公証が可能に

独立選挙委員会は、第一回追加有権者登録名簿が公表され、公証が可能となった旨発表した。同委員会は、有権者に対して、6月13日から7月3日の営業時間に登録事務所を訪問し、有権者登録名簿の名前が正確に記載され、正しい選挙区に登録されているか早急に確認するよう呼びかけた。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ BPFは正式に政党へ

12日、組織登録官はポツワナ愛国戦線(BPF)に対し、ようやく政党の登録証明書を発行した。BPFは今後開催される暫定委員会委員を選出する党大会及びカニエにおける党結成集会の開催に向け準備を進めていく。(14日:ポツワナ・ガーディアン紙)

○ 同性愛禁止の違憲判決

11日、高等裁判所は刑法の中で最大7年の禁固刑に処される同性愛を禁ずる条項がプライバシー、自由及び尊厳を妨害するものとして、違憲であるとの判決を下した。また、高等裁判所は同性愛禁止が差別的であり、公共の福祉にも貢献しないとした。同判決は国際社会及び活動家からポツワナが数少ない同性愛を合法とするアフリカの国々に加わることになると歓迎された。国は30日以内に同判決に対して上告することができる。(14日:ポツワナ・ガーディアン紙)

○ カラジェ元フランシスタウン市長のBDP離党及びBPFへの加入

フランシスタウン西地域の地方議会議員であるカラジェ元フランシスタウン市長は、与党BDPを正式に離党し、BPFの党員となったことが明らかになった。同氏は、メヒ紙のインタビューに答え、「当初無所属での立候補を検討していたが、BPFの結成により考えを改めた」と発言した。(14日:メヒ紙)

○ BDP、カーマ前大統領の退職手当等の改正を検討

BDPはカーマ前大統領の退職手当等の改正を検討しており、BDPの国会議員は大統領経験者の退職後の手当などを記載した大統領(年金、退職後の手当)法の改正を次回国会で提案する予定である。現在の大統領(年金、退職後の手当)法は2年前にBDPによって修正案が提案され改正されている。(15日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 10名の中央地区地方議会議員のBDP離党

19日、ウィリアムズ中央地区地方議会議長は、セロウェで行われた同地方議会において10名の地方議会議員がBDPを離党した旨の書簡を読み上げた。一方、離党した地方議会議員の一人であるクドゥマン議員によると、離党した議員数は20名であると発言し、さらに多くの離党者が出る旨主張した。BDPのコミュニケーション及び国際関係に係る準委員会の議長であるカンツェ氏は、ウィリアムズ中央地区地方議会議長に離党に関する書簡を提出した議員から正式な離党表明文書がBDPの事務所にまだ届いていないと発言した。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ モナーク北地方議会議員のBDP離党

カエロ・モナーク北地区地方議会議員はBDPを離党し、BPFに加入した。BDPの予備選挙で破れた同議員は、BDPの指導者たちによる党運営に不満を持っている旨発言した。(21日:メヒ紙)

○ 中央地区地方議会議員、給与を巡りマシシ大統領に対して嘆願へ

中央地区の174名の全ての地方議会議員は、地方議会議員の給与及び手当に関して、マシシ大統領とヴァン・デル・ウェスタン地方自治開発大臣に面会することを求めることに合意した。中央地区の地方議会議員によると、政府は本年5月から6月の間に給与及び手当に関する提案を検討すると約束したにもかかわらず、今までのところ、何の進展もない。(22日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ ボコUDC党首、大統領候補から除外される可能性あり

21日、ボコUDC党首の有権者登録に異議を申し立てる裁判が実施された。同裁判において、ポツワナ民主運動党(BMD)の党首でもあるピラーネ代理人は、ボコUDC党首及びその妻が憲法第67条に違反しており、有権者登録から除外されるべきであると主張した。憲法に違反しているとの判決が出れば、ボコ党首は大統領候補として立候補できなくなる可能性がある。ボコ党首の代理人は公判の延期を申請し、同申請は認められた。別件でピラーネ氏とボコ党首は、BMDを野党連合UDCから除籍した決定の撤回を求めてBMDが起こした裁判で8月29日に争う予定である。(22日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ グマ・モヨ議員、ポツワナに帰国へ

本年3月、グマ・モヨ国会議員は同議員の暗殺計画に係る情報を入手したとしてポツワナを出国していたが、国会が開催される7月には帰国する予定である。(22日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ マシシ大統領の暗殺未遂報道

18日、マシシ大統領は同大統領の暗殺計画が判明した後、姿を隠した。モザンビークで同大統領を襲う暗殺者が待ち受けているとの情報を受け、同大統領の政府専用機OK1はモザンビークのマプトに向かう途中で引き返すことを余儀なくされた。同大統領はマプトで開催された第12回米

アフリカ・ビジネスサミットでスピーチを行う予定だった。18日に政府系報道機関のモアルシ氏が同大統領のモザンビークへの出発に係る記事を掲載した後、大統領のスケジュールに関する公式メディアはただちに消失した。モルピシ大統領府首席次官は18日に同大統領がカーマ国際空港を出発したものの、予定通りにマプトに着陸しなかったことを認めた。サンデー・スタンダード紙の取材によると、マプトでの仕事をキャンセルした後、同大統領と一団は同大統領が所有するセコマの農場に姿を隠し、20日になって姿を表した。(23日:サンデー・スタンダード紙及び28日:ボツワナ・ガーディアン紙)

【外交】

○ マシシ大統領の米国訪問

5月30日から6月5日にかけてマシシ大統領は米国を訪問し、JCKラスベガス貿易展に参加した他、スタンフォード大学、エール大学、ティファニー社などを訪問した。(10日:デイリー・ニュース紙他)

○ マシシ大統領のセネガル訪問

6日、マシシ大統領は米国からの帰りにセネガルを訪問し、サル大統領を表敬訪問した。表敬訪問では、マシシ大統領がサル大統領をボツワナに招待したい旨発言した。同様にサル大統領はマシシ大統領を将来、国賓として迎えたい旨発言した。(10日:デイリー・ニュース紙)

○ ネオ大統領夫人、UNAIDS の特別大使に任命

14日、ネオ大統領夫人はボツワナの非感染性疾患予防に向けた多分野戦略及びHIV/AIDSに対する国家戦略枠組みの策定を記念する式典において、若者の自立と参加を促進するUNAIDS特別大使に任命された。(17日:デイリー・ニュース紙)

○ イタリア大手健康管理企業のボツワナ訪問

19日、イタリアの大手健康管理企業である Grupo San Donato 社一団はボツワナを訪問し、ダウ外務国際協力大臣及びケネウエンド投資・通商産業大臣を表敬した。同社一団は、モザンビークで行われた米アフリカ・ビジネスサミットに参加した後、保健分野における投資機会を求めてボツワナを訪問した。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ BITC等、中国アフリカ輸出貿易展に参加へ

ボツワナ投資貿易センター(BITC)、ビジネスボツワナ、投資・通商産業省高官等は27日から中国長沙市で開催される中国アフリカ輸出貿易展に12の現地企業を率いて参加する。BITC職員によると、ケネウエンド投資・通商産業大臣がボツワナ代表団の首席代表となる。参加する現地企業はオカバンゴ・ダイヤモンド社、Fairground Holdings 等である。(21日:メヒ紙)

○ **マシシ大統領, AU国連野生動物経済サミットに出席**

24日, マシシ大統領はジンバブエのヴィクトリアフォールズで開催されたAU国連野生動物経済サミットに出席した。同サミットにはムナンガグワ・ジンバブエ大統領の他, ルング・ザンビア大統領, ガインゴブ・ナミビア大統領等が出席した。(25日, 26日: デイリー・ニュース紙)

○ **第7回アフリカ陸軍サミットの開催**

24日, ハボロネにおいて第7回アフリカ陸軍サミットが開催され, 同サミットにはカティ司法・国防大臣, クラウド米大使等が参加した。カティ大臣は政府がアフリカにおける平和と安定の維持, ガバナンスの向上に力強くコミットしていくことを再度断言し, セキュリティー分野の協力等について米がアフリカの陸軍と協働していることを賞賛した。(26日: デイリー・ニュース紙)

○ **カガメ・ルワンダ大統領のボツワナ訪問**

27日から28日にかけて, カガメ・ルワンダ大統領がボツワナを初訪問した。同大統領のボツワナ訪問は, マシシ大統領からの招待により実現した。マシシ大統領とカガメ大統領の間での首脳会談が実施され, ボツワナとルワンダの間で一般的枠組合意 (General Framework Agreement: GFA) が署名された。一般的枠組合意には, 協力のための共同常設委員会 (Joint Permanent Commission for Cooperation) の発足が含まれており, 政府間協力, 貿易, 投資, 農業, 保健, 観光, 平和・安全, インフラ, エネルギー, テレコミュニケーション, 文化, 教育, 科学研究, メディア, 及び通信での協力が盛り込まれている。(28日, 7月2日: デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ, 米シンクタンクの北朝鮮に対する国連制裁違反リストに引き続き掲載**

米シンクタンクの科学国際安全保障研究所が発行した新たな報告書において, ボツワナは北朝鮮に対する制裁及び国連安全保障理事会決議に違反している国のリストに引き続き掲載されている。一方, ボツワナ側は同報告書が発表される前に北朝鮮の企業とビジネス取引を続けていることを否定している。(30日: サンデー・スタンダード紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

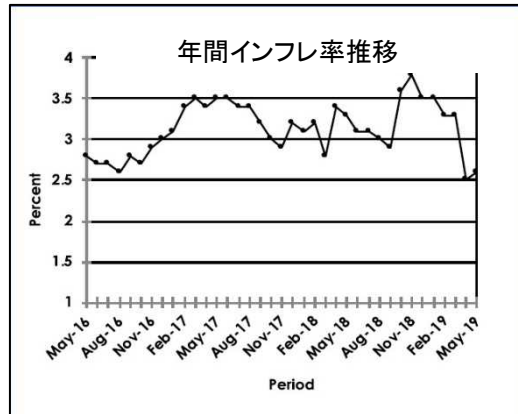
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2019年第1四半期の GDP は487億2890万プラとなり, 第4四半期(484億9160万プラ)と比べて0.4%増となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年5月は2.6%(4月は2.5%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

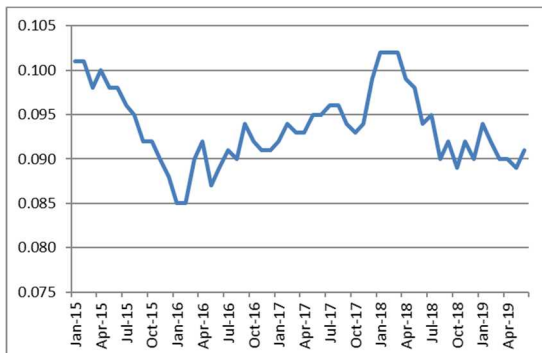
2019年6月28日

- 1プラ=0.092米ドル
- 1プラ=1.285南ア・ランド
- 1プラ=9.95円

2019年5月31日

- 1プラ=0.089米ドル
- 1プラ=1.312南ア・ランド
- 1プラ=9.81円

[米ドル] 為替推移(1プラ=0米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=0円)



○ ダイヤモンド産業

1) デビアス社の第5期ダイヤモンド原石販売売上減少

デビアス社の第5期ダイヤモンド原石販売会における売上は3億9000万米ドルとなり、前年同時期よりも33%減少した。デビアス社のクーパーCEOによると、アメリカのダイヤモンド小売業界の市場心理は堅いが、中国における困難な環境と卸売り業者における研磨済みダイヤモンドの在庫が通常よりも多いことが影響し、ダイヤモンド原石買い付け業者が慎重となったことにより需要が落ち込んだ。(28日:メヒ紙)

2) デブスワナ社、高度なダイヤモンド探査技術を試験

デブスワナ社(当館注:デビアス社とボツワナ政府の合弁企業)は、大きなダイヤモンド採掘の際にX線伝導技術(XRT)の使用をジュワネン鉱山で試験的に実施していると言われている。同社のセジョエ渉外担当マネージャーは、XRTを試験しているのは主に生産性を高め、採掘時の安全性を高めることで効率を上げることである旨発言した。(30日:サンデー・スタンダード紙)

○ エネルギー・資源

1) Kalahari Energy Botswana 社、97MWのコールベッドメタン発電所の建設優先権を獲得

Kalahari Energy Botswana 社は、鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省からコールベッドメタン(CBM)発電所の建設につき、優先入札者の地位を獲得した。同社は2018年10月にボツワナにおけるCBM発電所建設の開発に係る入札に提案書を提出していた。同様に2MWから10MWのCBM発電所建設に係る提案書を提出していた Tlou Energy 社も優先入札者の地位を獲得した。(1日:ウィークエンド・ポスト紙)

2) Koemacau Copper Mining 社、鉱山開発に係る契約を締結

セヒツァ近くの鉱山で銅の生産に向けて開発を予定している Koemacau Copper Mining 社は、豪企業である Barmenco 社と60億プラ規模の地下採掘契約を締結した。契約は5年間で Barmenco 社は2019年12月までに採掘を開始する。Koemacau 鉱山は自動加工システムによりボツワナで初めての機械化された鉱山となる見通しである。(28日:メヒ紙)

3) 北西送電網整備計画、65%完了

ボツワナの北西地域に電力を供給する48億プラ規模の北西送電網整備計画は65%完了し、年末までに最終段階に入る予定である。同計画は2018年1月から開始され、500キロの送電線と中継所を建設するものである。同計画の第二フェーズは2019年8月に開始され、2020年10月までに完了する見通しであり、第二フェーズでは900キロの送電線を整備する予定である。(14日:メヒ紙)

○ 国営企業評価民営化局, ボツワナ食肉委員会の民営化に約1300万プラを支出

5月30日, 国営企業評価民営化局(PEEPA)は, ボツワナ食肉委員会(BMC)の民営化の過程に1290万プラを支出する予定である旨発表した。PEEPAは政府に民営化戦略及び民営化の実施について助言する機関である。PEEPAは先日デロイト・ボツワナ社とMinchin & Kelly社を民営化に係る入札の落札者に決定した。デロイト・ボツワナ社はBMCのマウン食肉工場の評価を行い, Minchin & Kelly社は実現可能な民営化モデルの研究と政府への提案に係る仕事を請け負う。(1日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 一部地域の口蹄疫の終息宣言

10日, モラオ農業開発・食料安全保障大臣は, マディナレ地域及びボビルワ地域を含む第7地区における口蹄疫の終息を宣言した。同大臣によると, 同地域では, 2011年に口蹄疫の流行が確認されたが, 二年間で家畜へのワクチンの接種, 感染した家畜の処分を通じて口蹄疫を撲滅した。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ ネズミ講に対する注意喚起

ボツワナ銀行は, 国民に対し, 国内でネズミ講を通じた違法なビジネス活動が行われていることに対して注意喚起を行った。同銀行のプレスリリースによると, ネズミ講を通じた違法な活動を行っているのは Global Dream 社と Dynamic Cycle Network 社である。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ 国営企業評価民営化局 CEO の職務停止

国営企業評価民営化局(PEEPA)の役員会は今週, モウマクワ CEO の職務停止を決定した。職務停止の理由は明らかになっていない。モウマクワ CEO は職務停止の決定を撤回するためにあらゆる手段を講じる旨発言した。(22日:ウィークエンド・ポスト)